

或る婦人へ

合はう 合はう 朋の目下下今今と向ふ合はう
いくはるか 合はうはなごめを 引返さずしるはう
かこまるといふ

馬車畑の中へやまに馬車か回り子供をたうまごやいと摘みあはし
このしつちを岐路のし
こゝのしつちを岐路のし 満露路のしとよの鳥ん
あるをばみく小使んていよ

あつてあつて日あつて一年ばかり雨の日をえうんで今年なか
病に困つていふを止めて

とんちんかたのいふ言ひ日下 じんちん母かすすめい
はるか外にゆめというあるを 死ぬまで 合はめというあるを

あつてあつて日あつて一年ばかり雨の日をえうんで今年なか
片腕をふぶく家におまるといふ 杖をまよひに焼かれ

やつと治るなあとはけいどの 隆起のよじりて曲りてうらと塊りつりていよと
いふあるを 眼と鼻と口

片腕を夏はしりス痛 冬は冬を痛 生治るまで
地心と煙のあははる あらるる胸が小さくを割きとて

涼の床を掘りていふ
あるをいふ こはるる ありていふ

いや合はうていふ 合はうていふ
合はうていふ 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ

濃汁を流していふ 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ
この汁をいふ 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ

此の物の集いと 血眼目んさうしん
せりけの人の心ル 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ

生きたら焼く死んでいふ人 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ
生きたら焼く死んでいふ人 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ

合はうていふ 腹がたい 合はうていふ 腹がたい 合はうていふ

あつてあつて日あつて一年ばかり雨の日をえうんで今年なか
あつてあつて日あつて一年ばかり雨の日をえうんで今年なか

あつてあつて日あつて一年ばかり雨の日をえうんで今年なか
あつてあつて日あつて一年ばかり雨の日をえうんで今年なか